

ターボ機械協会 出版物に関する倫理指針

ターボ機械協会は、流体機械システムに関する学術・技術の進歩発展を図るために、会員に対し発表の場を提供すべく、ターボ機械協会誌「ターボ機械」をはじめとする各種学術図書・電子書籍などの出版活動を推進してきた。これらの活動が適切に遂行されるためには、学術誌へ論文掲載を求めて投稿する著者、研究論文の掲載可否を審査する編集者、査読者、それ以外の原稿の校閲を行う校閲者、またそれら全体を監査する編集理事委員会のそれぞれが、倫理的な規準を満たして活動しなければならない。本倫理指針は、「ターボ機械協会倫理規定」に則った論文投稿、査読・校閲に関する事項を遵守するために定め、論文の発表・掲載をより一層内外から信頼されるものとするために制定する。その際に、著者は他者の諸権利を侵害してはならないし、編集者、査読者および校閲者は著者の諸権利を侵害してはならない。

倫理基準

A. 編集者の責務

1. 編集者とは編集委員長、副編集委員長および編集委員を指す。編集委員長は投稿された論文の掲載を受理するか否かの権限と最終責任を有する。編集委員長はこの判断をするために副編集委員長または編集委員の意見を求めることができる。副編集委員長および編集委員は、さらに査読者または校閲者の意見を求めることができる。
2. 掲載を希望するすべての原稿に対し、編集者は、著者の性別、人種、民族、国籍、宗教、政治的思想に関係なく、科学的および工学的な価値に基づいて各原稿を審査し、公平かつ公正に掲載の可否を決定する。
3. 編集者は、投稿があれば速やかに論文審査プロセスを開始せねばならない。
4. 編集者は、専門的な助言を求める者以外には、審査過程にある原稿の内容に関するいかなる情報も開示してはいけない。査読者の氏名は、査読者の許可なく開示してはいけない。
5. 編集者は著者の知的独立性を尊重する。

6. 編集者が著者または共著者と個人的もしくは仕事上のつながりがあるなど、公正な判断が保証されない可能性がある場合、編集者は編集責任を他の編集者に委譲しなければならない。
7. 投稿原稿に記載された未発表の情報、主張、解釈は、著者の同意がある場合を除き、編集者の研究に利用したり、第三者に開示したりしてはならない。
8. すでに掲載された論文の主要な内容や結論が誤りであるという指摘が信頼性の高い証拠とともに編集者に寄せられた場合、編集者は著者および共著者に対してその誤りを指摘し、必要があれば適切な訂正文や技術コメントを掲載するよう、これを促さなければならない。

B-1. 研究論文の著者の責務

1. 著者（著者および共著者）の主な責務は、遂行した研究を簡潔かつ正確に説明し、その意義について客観的な議論を行うことである。
2. 論文には、他の研究者らがその研究結果を再現できるような、研究手順や条件などに対する十分な情報が含まれていなければならない。
3. 著者は、研究の独自性・新規性を明確にするために、関連する先行研究の出版物などを適切に引用しなければならない。
4. 著者は、原稿に剽窃や研究データの改ざんがないことを保証しなければならない。
5. 著者は、第三者との会話、書簡、議論などで入手した情報を、その情報元に許可なく、原稿に使用してはならない。原稿の査読や助成金審査など、機密を扱う業務の過程で得た情報も同様である。
6. 研究論文は断片的な結果の羅列だけではなく、一編の論文の中に完結した内容を含み、結論が示されなければならない。
7. 主要な研究成果を記述した原稿を、複数の出版物に投稿（二重投稿）してはならない。

8. 先行研究論文の内容に対する学術的指摘は認められるものの、いかなる場合においても、個人的な批判は認められない。
9. 著者は不適切なオーサーシップを避ける義務を負う。研究や論文の執筆に実質的な貢献をした者のみが著者として記載されるべきである。また、論文が出版される際には、全ての著者が最終原稿を確認し、出版に同意しなければならない。
10. 明らかな商業目的の原稿は不適切である。
11. 政府または企業などに対し公開許可が必要な場合には、論文投稿に先立ち、必要な許可を得ることは著者の責任である。転載許可についても同様である。

B-2. 展望解説、講座、分科会報告等の著者の責務

1. 著者（著者および共著者）の主な責務は伝えたい内容を簡潔かつ正確に説明し、その意義について客観的な議論を行うことである。
2. 著者は、原稿に関連する出版物などを適切に引用しなければならない。
3. 著者は、原稿に剽窃や研究データの改ざんがないことを保証する必要がある。
4. 著者は、第三者との会話、書簡、議論などで入手した情報を、その情報元に許可なく、原稿に使用してはならない。原稿の査読や助成金審査など、機密を扱う業務の過程で得た情報も同様である。
5. 主要な研究成果を記述した原稿を、複数の出版物に投稿すること（二重投稿）は不適切である。
6. 既発表の論文、記事など出版物の内容に対する科学技術的な指摘は認められるものの、いかなる場合においても、個人的な批判は認められない。
7. 著者は不適切なオーサーシップを避ける義務を負う。研究や論文の執筆に実質的な貢献をした者のみが著者として記載されるべきである。また、論文が出版される際には、全ての著者が最終原稿を確認し、出版に同意しなければならない。

8. 明らかな商業目的の原稿は不適切である。
9. 政府または企業などに対し公開許可が必要な場合には、原稿の投稿に先立ち、必要な許可を得ることは著者の責任である。転載許可についても同様である。

C-1. 研究論文の査読者の義務

1. 原稿の査読は出版過程において不可欠な工程であり、査読者は、公正な査読を行う義務がある。
2. 依頼された査読者が、原稿に記されている研究内容を評価することが困難である、または査読時間が確保できない場合は、速やかに査読を辞退しなければならない。
3. 査読者は、原稿の質を客観的に判断し、著者の知的独立性を尊重すべきである。原稿の内容に対する学術的指摘は認められるものの、いかなる場合においても、個人的な批判は認められない。
4. 査読者は、利益相反に対して配慮すべきである。疑義がある場合、査読者は編集者に利益相反の旨を通知し、査読をせずに速やかに原稿を返却しなければならない。
5. 査読者は、査読のために送られた原稿を機密文書として扱うべきである。その内容および査読者自身が記したコメントは、特別な場合を除き、査読者の研究に利用したり、他人に見せたり相談したりすべきではない。査読に際し、専門家からの助言が必要な場合には、編集者の許可を得て助言を求めることができる。
6. 査読者は、判定結果の根拠を丁寧に示しながら査読コメント文を作成しなければならない。また、編集者や著者が納得できるように必要に応じて、裏付け資料の添付や文献引用を行うべきである。
7. 査読者は、投稿論文の独自性・新規性について既発表の文献等を参照しながら慎重に評価しなければならない。上記には、著者による二重投稿も含まれる。査読中の原稿と既発表の文献等に本質的な類似点が見つかった場合、あるいは、査読中の原稿が他の論文誌に同時投稿されていることが明らかになった場合は、このことを編集者に報告しなければならない。

C-2. 展望解説、講座、分科会報告等の校閲者の義務

1. 原稿の校閲は出版過程において不可欠な工程であり、校閲者は、正確な校閲を行う義務がある。
2. 依頼された校閲者が、原稿に記されている内容の把握が困難である、または校閲時間が確保できない場合は、速やかに校閲を辞退しなければならない。
3. 校閲者は、原稿の質を客観的に判断し、著者の知的独立性を尊重すべきである。原稿の内容や表現方法に対する指摘は認められるものの、いかなる場合においても、個人的な批判は認められない。
4. 校閲者は、利益相反に対して配慮すべきである。疑義がある場合、校閲者は編集者に利益相反の旨を通知し、速やかに校閲を辞退しなければならない。
5. 校閲者は、校閲のために送られた原稿を機密文書として扱うべきである。その内容および校閲者自身が記したコメントは、特別な場合を除き、校閲者の研究に利用したり、他人に見せたり相談したりすべきではない。校閲に際し、専門家からの助言が必要な場合には、編集者の許可が必要である。
6. 校閲者は、指摘根拠を示しながらわかりやすく校閲コメント文を作成しなければならない。また、編集者や著者が納得できるように必要に応じて、裏付け資料の添付や文献引用を行うべきである。
7. 校閲者は、原稿の著作権について注意しなければならない。校閲原稿と他の出版物等の内容が酷似している場合、あるいは、原稿中の文献引用方法が不適切で剽窃の疑いがある場合は、このことを編集者に報告しなければならない。

謝辞

「ターボ機械協会 論文投稿・校閲に関する倫理指針」は、International Journal of Fluid Machinery and Systems (IJFMS) の倫理基準を参考にして作成された。